日本産倍足類及び唇足類の分類學的研究 III.

ヤマトババヤスデ屬の2新種と1新亜種について

三好保德（愛媛縣松山北高校） （1951年2月7日受領）

ヤマトババヤスデ屬 *Japonaria* についての筆者の考え又は *Japonaria* 屬の中に包含される動物群の變遷などについては，かつて Acta Arachnologica 11, (3/4), '49 の中でかなり詳細に述べたのでここでそれをくりかえすことはしない。本屬のヤスデは日本産のヤスデ中最も大形のものであり，外觀的には非常によく類似している。それで種の検索表を作るような場合には主としてその生殖肢の形態によるのであるが，この生殖肢の形態の相違がはたして種のちがいを決定するものかどうかの問題は實はこの屬のみにかんする簡單な問題ではない。しかし筆者は未だ種の標徴としてとりあげた程の生殖肢の形態の相違が，實はそれは單なる變異にすぎないものであると斷定していいような場合には出逢つたことがない。けれども一方，同一地方には同じ形態の生殖肢をもつものが棲んでいて，地理的に他地方の群とは生殖肢の形態がちがつているという事實はこれを認めている。たとえば，*Japonaria acutidens* では端肢の先端近くにある外枝が端肢の先端より短いのであるが，この種は現在迄のところ關東地方，中部地方東部の各地から採集されているけれどもそれ以外の地方からの採集記錄がなく，外枝と端肢先端とがほぼ同長である *Japonaria marmorata* は近畿地方及び中國地方に分布しているのみであり，ここに記載した *Japonaria longispinosa* n. sp. は外枝が端肢先端よりはるかに長いものであるが愛媛縣下では現在迄の處この形態のもののみが得られ上記の2種と同じ範疇に入る形態の個體には接していない，という事實である。そこでこれらの3種は1種の地理的變異と見ることも可能であらうが，しかしそのように斷定していい資料を今のところ筆者はもつていない。要するに筆者は従來の分類學の方法の上に立つて，この生殖肢の形態の相違を獨立の種の重要な形質の1としてとりあげることにする。無論生殖肢以外の形態的標徴は重要である。

1. *Japonaria spathulata* n. sp.（ヘラアシババヤスデ）

體長は約 45mm，體幅約 7mm，體色はアルコール標品では淡黄褐。側庇はよく發達し，前角は円く，後角は大略第 11 節から後方へ角狀に突出していて後方程著しい。胸板は平滑で毛もなく，歩肢にある基節先端腹面の圓錐突起，腿節先端腹面の棘はともに大體第9歩肢からはじまる。雄の第3第4歩肢のある胸板には各2本の大形の棘狀突起がある。生殖肢：端肢がヘラ狀であることは同屬の他種と斷然異なる標徴である。腿節部の先端に尖つた齒狀突起はない。端肢の內枝は細長く，その基部に近く1つの葉狀突起がある。扁平な端肢端に近い內側に短い精溝枝があり，これには微毛が生じている。産地：笹ケ峯（愛媛）1896 m，村上好央採集 (Fig. 1)。

2. *Japonaria longispinosa* n. sp.（イヨババヤスデ）

體長♂45--52mm，♀45—53mm，體幅♂7.5—8mm，♀7.5—8.5mm，體色赤黄色又は青緑。側庇はよく發達している。側庇の多くはその後角が直角に近くただ後方 6—7 體節のものが3角齒狀に後方へとがつている。基節棘は第 14 基節から，腿節棘は第 11 腿節からはじまる。第6基節には大形の瘤隆起がある。雄の第3第4基節の間には2本の棘狀突起がある。生殖肢は *J. acutidens* によく似ている。けれども外枝は端肢端よりはるかに長い。精溝枝に近い端肢の內側緣のふくらみは單純であるが明である。産地：出石寺山（喜多郡），眞穴村・三島村（西宇和郡），好藤村（北宇和郡）以上愛媛縣 (Fig. 2, a)。

3. *Japonaria longispinosa falcata* n. subsp.（カマガタババヤスデ）

愛媛縣北宇和郡愛治村の杉林中に3ケ年4回にわたつて採集を試みたが次の形態のもののみが棲息している。それで一應之を區別しておく必要があるので *J. longispinosa* の亜種として記載する。體色は淡青綠。頭部，歩肢，胸板は淡黄。體長♂47—51mm，♀49—51mm，體幅♂7.5—8mm，♀8—8.5mm。*J. longispinosa* に非常に近緣であるが，ただ常に端肢の先に近い內側緣にさらに1つの鎌狀突起をもつている點で明らかに區別できる。産地：愛治村 (Fig. 2,b)。

Résumé

Beitrage zur Kenntnis Japanischer Myriopoden.

III. Aufsatz: Über 2 neue Arten und 1 neue Unterart von *Japonaria*.

YASUNORI MIYOSI (Matuyama Kita Kōtō-Gakkō)

1. *Japonaria spathulata* n. sp.

Länge ca 45mm, Breite 7mm, Farbe hell gelbbraun (im Alkohol). Seitenflügel gut entwickelt, Vorderecken rundlich und Hinterecken vom etwa 11. Segment an zahnartig nach hinten vortretend, caudalwärts immer länger und spitzer. Sternite glatt und unbeborstet. Vom etwa 9. Beinpaar an wachsen Coxaldorn und Präfemoraldorn. Sternite des 3. und 4. Beinpaares des ♂ mit 2 grössere
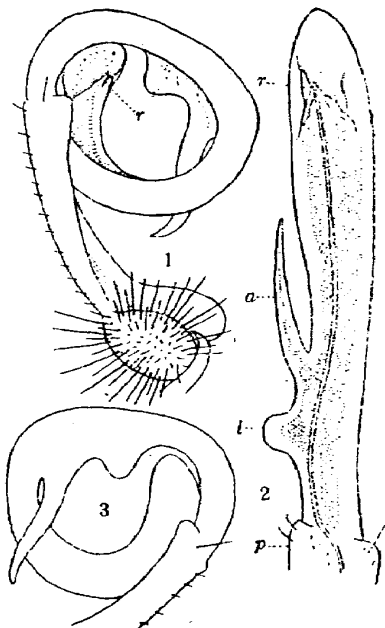
Fig. 1 *Japonaria spathulata* n. sp. Gonopoden.
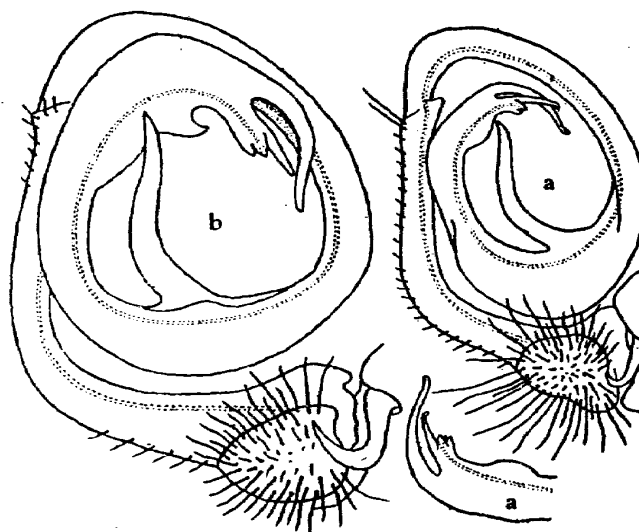
Fig: 2 a. *Japonaria longispinosa* n. sp. Gonopode.
b. *Japonaria longispinosa falcata* n. subsp. Gonopode.

Zapfen. Gonopoden: Diese Art unterscheidet sich klar von den übrigen bekannten Arten derselben Gattumg durch das spachtelförmige Acropodit (Fig. 1: 2), und das beschreibt mehr als eine Kreiswindung. Am Ende des Femoralabschnittes (p) kein spitzer Zahn. Innenast (a) lang, schlank, einfach und an der inneren Basis des Innenasts fällt ein breite Lappen (l) auf. Das Ende des Acropodit platt, breit und innen mit kurzem Rinnenast (r), der sehr winzig beborstet. Fundort: Sasaga-Miné (笹ヶ峯) 1896m (Ehimé-Ken), gesammelt von Herr Yositeru Murakami.

2. *Japonaria longispinosa* n. sp.

Körperlänge ♂ 45-52mm, ♀ 45-53mm. Breite ♂ 7.5-8mm, ♀ 7.5-8.5mm. Farbe rotgelb oder blaulichgrün. Seitenflügel gross, die meisten Hinterecken rechtwinklig, nur auf den letzten 6-7 Segmenten werden sie 3 eckig zahnförmig. Coxa und Präfemur mit Höckerchen oder Dorn am Ende der Unterseite, das vom etwa 14. Coxa und 11. Präfemur. 6. Coxa mit grossem Buckel. Zwischen den Hüften des 3. und 4. Beinpaares beim ♂ mit 2 grössere Zapfen. Gonopoden denen von *Japonaria acutidens* ähnlich, der Aussenast ist jedoch viel länger als das Acropoditenende. Innenast von derselben Gestalt und Grösse wie bei *J. acutidens*. Die einfache Vorwölbung auf der Innenseite des Endes von Acropodit deutlich ausgeprägt. Fundort: Izusi-Yama (820m), Maana-Mura, Misima-Mura (Nisiuwa-Gun), Yosifuzi-Mura (Ehimé-Ken).

3. *Japonaria longispinosa falcata* n. subsp.

Farbe gelblichgrün, Kopf Sternite und Beine gelblich. Länge ♂ 47-51mm, ♀ 49-51mm. Breite ♂ 7.5-8mm, ♀ 8-8.5mm. Sehr nahe mit *J. longispinosa* verwandt, aber doch mit einer Vorwölbung und einer sichelförmigen Vorwölbung auf der Innenseite des Endes von Acropodit. Fundort: Aizi-Mura (Ehimé-Ken).